

Kiko

ボン

気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四條上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012
 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 半蔵門サウスビル 2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463
 E-mail: kyoto@kiconet.org (京都) tokyo@kiconet.org (東京) URL: http://www.kiconet.org/

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

「福田ビジョン」：ビジョンなき、G8 ホスト国日本。

世界の注目を集めていた「福田ビジョン」は、9日午前11時にここボンに届いた。その内容は世界の市民が待ち望んでいた内容とは大きく乖離していたため、事前に福田総理大臣に向け、手紙を送ったNGOの間には、失望と落胆の空気が広がった。

CANによる緊急記者会見

発表後すぐに、気候行動ネットワーク(CAN)は、日本のNGOと一緒に緊急記者会見を開き、「福田ビジョン」に対する世界のNGOの反応を世界に発信した。

会見では、WWF国際ショナルのカトリン・グットマン氏、CAN東南

アジアのガーミット・シン氏、憂慮する科学者同盟(UCS)のオールデン・メイヤー氏、E3Gのジェニファー・モーガン氏が発言した。

4人は、福田総理大臣が、G8において、気候変動を主要な議題と掲げていることを評価しつつも、日本が長期目標として掲げた2050年までに60~80%削減では、危険な気候変動を回避するには不十分であること、その基準年を2005年として過去の排出増を帳消しにしようとしていること、そして、洞爺湖サミットを契機に、コペンハーゲンに向け2013年以降の次期枠組みに関する交渉をリードする為に不可欠な中期目標を発表しなかった点に

触れ、これでは低炭素社会への道を示したことになる、世界に向けて、明確なビジョンを示してリーダーシップを発揮することに失敗したと述べた。

「化石賞」を受賞

また、日本は、「福田ビジョン」にある2020年の日本の削減ポテンシャルを示す際に使った数値のトリックで、「今週の化石賞」第2位を受賞した。この賞は、CANが、その日の交渉を妨害、後退させるような発言をした国に与えるもので、今回は、先週から今週月曜日の午前中までの動きを対象にした「今週の化石賞」を授与することとなった。

ぼやけた「福田ビジョン」(eco 6/10 抄訳)

昨日、東京で、福田首相の気候変動政策、いわゆる「福田ビジョン」が発表された。その内容は、2008年のG8サミット開催国として気候変動問題に求められている意欲と緊急性を欠くものだとECOは見ている。

日本は、2050年までの長期削減目標を60~80%に設定したものの、中期目標の発表を来年まで引き伸ばした。それにかわり日本が持ち出したのは、数字遊びである。削減目標の基準年を1990年から2005年に変更することによって、この問題に対する誠意の欠如をごまかすことにしたのだ。

セクター別アプローチを積み上げた日本の目標は、2020年までに20%削減というEUの目標と遜色のないものだという。この発言は、2005年を基準年とすればEUの20%削減は14%の削減にしかならないことに依拠している。しかし、日本が主張する14%削減は、1990年比で20%というEUの目標に対して8%でしかなく、森林吸収を除けばわずか4%にすぎないことに言及してはいない。2020年までに8%という、京都議定書の削減目標にわずか2%上乗せしただけの削減目標を掲げて、どうG8の気候変動問題における指導力を発揮できるのか、ECOは理解に苦しむ。

日本は世界を愚弄するだけでなく、各国が国別総量目標ではなくセクター別アプローチを用いるよう提案している。しかし、ECOは、積み上げ方式による削減幅と科学が求める削減幅の間には大きな乖離があることを憂慮している。日本は、数字遊びを止め、1990年比で25~40%削減という中期目標を設定すべきだ。

日本の排出量は1990年比で約7%増加したが、京都議定書の目標を達成するために不可欠な実効性ある国内排出量取引制度の創設を明言するには至らなかった。福田首相は、排出量取引制度を試行的に実施すると語ったにすぎない。このようなあいまいなビジョンで、福田首相はG8サミットでどう指導力を発揮するのだろうか？

現在の交渉は、「買い物リスト」づくり

2週目に入ってから、交渉はインフォーマルな会議の形式で進められてきた。4つの会議が並行して行われているが、定期的に行われる補助機関会合（SBI・SBSTA）の議題のいくつかは、議論を終了または延期する決定をし、AWGの下での「次期枠組み」交渉に集約する方向になりつつある。また、AWGの議論はこれから検討すべき事項を列挙する作業で、いわば「ショッピングリスト」作りだといえる。

【条約 AWG】

結論文書案がまとまった。今後、真の「交渉」を始めるには、8月のアクラ、12月のポズナンの2回で、残された3つのワークショップを行う以外に、交渉の土台となる文書を作る必要となる。今回の結論文書案では、そのための「具体的な文書化された提案」を提出するよう求めている。例えば、ノルウェーやメキシコが提案している具体的な資金メカニズムなどを文書化して議論に乗せるためと思われる。確かにこのままでは議論はしても交渉はモヤモヤと進まない。コペンハーゲンでの合意文書につながる文書をしっかり用意していくためのプロセスが必要だ。なお、バルバドスの提案で、バンコクの作業計画にもあるとおり、NGOも意見提出ができることになった。これにより、今回はじめてNGOの提案が正式な交渉テーブルに乗ることになる。

【議定書 AWG】

京都メカニズム、吸収源活動（土地利用・土地利用変化及び森林部門）などについて、今後議論すべき事項を列挙したリストが作られている。リストは各国が提示したもの全てをひとまず一覧にするという作業で、中身は良いものも悪いものもテンコ盛りだ。例えばCDMに関してだけでも、原発利用、農業土壌活動の利用、森林減少対策利用、CDMでのCCS（二酸化炭素固定貯留技術）などが列挙されており、いずれも環境を大きくゆがめる恐れがあるものだ。これを見ていると、COP6.5に向かってあれだけの労力をかけた交渉で作り上げた「マラケシュ合

次期アメリカ大統領の気候変動政策

今月、遂に、次期アメリカ大統領候補が出揃った。二人の候補者はこんな風になっている。

民主党のバラック・オバマ候補

「全ての信頼できる科学者と専門家は、行動が必要と確信している。それはとても重要で、延び延びになっている法案が、我々が直面している最も深刻な問題である気候変動問題に対応する大事な一歩だ」

共和党のジョン・マケイン候補

「気候変動問題は、我々アメリカだけではなく、世界全体が直面している最も深刻な環境問題である。私は、連邦政府が、気候変動対策の一役を担うリーダーとなって、地球規模の環境問題に対応する世界全体での努力に参加できる強い自信がある」

どちらが大統領になっても、アメリカの気候変動政策は今の政権とは大きく変わり、国内的にも国際的にももっと積極的に取り組むことになるのは間違いない。

しかし、洞爺湖サミットやコペンハーゲンに向けた国連の交渉会議においても、日本政府は、いまだ現ブッシュ政権しか見ていないようだ。ボンでの交渉でも、今やレイムダックとなったブッシュ政権下の米国代表団は全くやる気が見えない。こんなブッシュ政権であっても、政権が続く最後の最後の2009年1月19日まで日本はついていく気なのか？ 次の政権を見据えた戦略もそろそろ考えないと、また、はしごを外されますよ。

意」を完全に見直しする方向に向かうのではないかとの懸念もわいてくる。現時点では中身の交渉には入っていないが、今後どのように交渉を進めるのか、気が重くなるようなリストだ。

【9条見直し】

ポズナンで行われる第2回目の議定書の見直し作業で見直す項目について、非公式会合で引き続き検討が続けられている。その項目を、バリ会議で決まった5つの項目だけにするのか、それをもっと増やすのかというのが今の主な議論だ。ちなみに、日本は、5つの項目以外に、約束期間、基準年、遵守制度、発効要件、森林、共同達成（バブル）などを見直すよう提案している。

アクション報告

ボンで交渉をどう進展させる？ ホッキョクグマが フォーチュンクッキーを配布

6月2日の朝、ホッキョクグマが、会議に参加する政府代表に、フォーチュンクッキーを配布した。これは、WWFとオックスファムが主催したもので、クッキーの中に入っているメッセージは、「地球の気温上昇を2度未満に抑えることが、2013年以降の国際的な気候変動防

止体制の目標でなければならない」など、今後2週間の交渉について、どのような点について進展があるべきなのかを示したもののばかり。ひき当てたメッセージどおり、交渉を前に進めるよう、各国政府にはがんばってもらいたい。

寝た子を起こす パジャマ・アクション

6月10日、スーツを着た各国の代表団が行き交う本会議場前に、グリーンピースインターナショナルのスタッフがパジャマ姿で現れた。

このパジャマ・アクションは、まるで目覚まし時計が鳴り響くように、地球がシグナルを送り続けているにもかかわらず、いまだにパジャマを着て寝たままのような国々を風刺したものである。

パジャマを着て寝ている国々とは、いつものように交渉の足を引っ張るカナダ、日本、オーストラリア、アメリカ、サウジアラビア。コペンハーゲンまで残された時間は少ない。今すぐ目を覚まし、交渉を進めなければならない。

Kiko AWGLCA2/AWGKP5.2 通信 No.2

2008年6月12日発行

発行/編集 気候ネットワーク

川阪京子、小西雅子、佐藤由美、平田仁子

現地携帯: +49-157 7595-5764 (川阪)